

**=市史編さん便り=** 【25号】 令和4年8月4日(水) 発行.

\*\*\*\*\*土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

## 市教研・社会科部会研修で

### 松尾地区のフィールドワークを実施する！

本日、足摺岬小学校区における松尾地区の社会科地域教材のフィールドワークを実施した。13時30分から足摺岬小学校英語教室において事前講話（講師・市史編さん室田村）を行い、その後に松尾地区に移動してフィールドワークを実施した。

フィールドワークでは、金毘羅宮灯明台（市指定文化財）→旦那さんの墓（角屋与三郎の墓）→松尾の防空壕→女川沿いの石垣→松尾漁港の海老ヶ穴→松尾天満宮（ポルネオ渡航碑、手水鉢、回り舞台）→国指定アコウの木の順でフィールドワークを実施した。

地域教材を題材に授業展開していくためには、現行『学習指導要領（社会科）』に基づき、社会科の授業としてどのように成立させていくか工夫が必要であり、それぞれの教員の情報収集と努力が不可欠である。

小学校では、3～4年生が社会科における地域学習の中心となるが、身近な地域の地形、土地利用、公共施設の様子、古い道具、文化財や年中行事、地域の発展につくした先人等が事例として挙げられている。本市においては、国重要文化財吉福家住宅、中浜万次郎の生涯、上田亀之助の市街地形成、古い航空写真や近世絵図の活用等がまずその取り組むべき内容や資料となるだろう。

中学校では、主体的・対話的で深い学びを実現するために、「問いの設定」「追究していくための多様な着目すべき視点」「課題の追究やその解決」という流れに沿う授業展開が必要である。この学習過程を通じて、生徒には資料の「収集能力」「読み取る力」「読み取ったことをまとめる力」を育成していかなければならない。

今回のフィールドワークでは、まず教員自身が身近な地域の歴史に関心を持つことが第一である。この研修がその一つのきっかけになってくれればとても嬉しい。



足摺岬小学校での事前講話を実施



松尾金毘羅宮灯明台（市指定文化財）





旦那さん(角屋与三郎)の墓碑



松尾集落の市道沿いにある防空壕



松尾天満宮鳥居横のボルネオ渡航碑



松尾天満宮回り舞台



松尾天満宮北側のアコウの大樹

松尾アコウの自生地は、大正10年3月3日に国指定文化財(天然記念物)として指定を受けた。天満宮周辺域から松尾漁港一帯の小字を「松ノ下」と呼び、この小字一帯が自生地として保護対象となる。

勘違いしやすいのは、樹齢300年の大木のみが指定されていると思われていることであり、実際はその大木も含めて小字全体のアコウが保護対象となる。ちなみに「石抱きアコウ」は指定区域からは離れているので指定はされていない。

アコウは寒さに弱く、他の木に寄生して成長することが多い。寄生された木は、やがて枯死し、その部分が空中となる。このことから俗に「締め殺しの木」と呼ばれている。